

北九州市環境未来都市

まち

地域や都市の中で人が輝く、賑わい・安らぎ・活力のあるまち
～公害を乗り越えた経験と持続的に創造するイノベーションを活かして～



平成24年9月
北九州市

1 『環境未来都市』構想とは



環境未来都市は「元気な日本」復活のための国家プロジェクトです。

●政府の「新成長戦略」のプロジェクトの一つ

- 限られた特定の都市・地域において、世界に類のない成功事例を創出
- 成功事例を国内外に普及展開

景気回復、雇用創出、国際的な課題解決力の強化を目指す

●人が中心の『誰もが暮らしたいまち』『誰もが活力あるまち』

- 生活基盤向上のため、環境・社会・経済という3つの価値が創造されるまち

環境価値

低炭素、水・大気環境、
生物多様性、循環 など

社会的価値

健康、地域医療、介護、
安全安心、子育て支援 など

経済的価値

安定な雇用・所得、新産業、
更なる都市化 など

人々の生活の質を向上させることが究極的な目的

2 北九州市環境未来都市の選定



環境未来都市として将来に向けてまちづくりに取り組みます。

●平成23年12月22日に、北九州市が提案した「北九州市環境未来都市」が11地域の一つに選定されました。

◆選定結果

・選定件数:11件 (うち被災地からの選定件数:6件)

※提案件数:30件 (うち被災地からの提案件数:6件)

<参考:選定都市>

【被災地以外:5地域】

- ・下川町(北海道)
- ・柏市(千葉県)
- ・横浜市(神奈川県)
- ・富山市(富山県)
- ・北九州市(福岡県)

【被災地:6地域】

- ・大船渡市、陸前高田市ほか(岩手県)
- ・釜石市(岩手県)
- ・岩沼市(宮城県)
- ・東松島市(宮城県)
- ・南相馬市(福島県)
- ・新地町(福島県)



選定書授与式の様子 (H24年1月)

3 なぜ、北九州市は応募したのか



「環境未来都市」等の制度を活用して本市のまちづくりを加速します。

【理由1】 制度の活用により「緑の成長戦略」を加速できる

- 「環境」と「アジア」をキーワードに国内外の投資を呼び込み雇用を創出し、地域経済を活性化

【理由2】 北九州市の「強み」を活用できる

●環境分野における幅広い対応能力

- 再生可能エネルギーの導入、エネルギーの高効率利用などによるCO2削減
- アジアを中心とした途上国の環境改善への協力
- ゴミの分別収集やエコタウンなど資源循環への取組 など

●どこよりも早く始めた高齢化社会への対応

- 人にやさしい「バリアフリーのまちづくり」
- 保健・医療・福祉・地域が連携した健康づくりへの取組
- 救急医療体制、リハビリテーション体制の構築 など

【理由3】 市の情報発信力やイメージの向上が期待できる

- 市民が誇れる都市イメージに

4 環境未来都市提案内容



「誰もが暮らしたいまち」、「誰もが活力あるまち」の実現を目指します。

地域や都市(まち)の中で人が輝く、賑わい・安らぎ・活力のあるまち
～公害を乗り越えた経験と持続的に創造するイノベーションを活かして～

エネルギーを
大切に使う

ゴミが少ない
きれいな街で暮らせる

役割をもち元気に
楽しく過ごせる



身近な緑や水辺で
安らげる

安心して子どもを
育てられる

このまちで学び
このまちで働ける

5 北九州市環境未来都市の特徴



主な特徴は、地域における自立的な展開を推進することです。

● 具体的な方向性

- ①これまで蓄積した「環境」の取組を将来のまちづくりに活用
- ②超高齢化(福祉分野)では、市民の日常生活に焦点を当てる
- ③「国際戦略総合特区」制度の活用
- ④東日本大震災被災地の復興支援につなげる

● 世帯や世代を越えた「地域の力」、「地域のつながり」の活用例

◆まちな森プロジェクト（環境首都100万本植樹・・・現在 約35万本植樹済H24.5）



子どもも参加した
どんぐり拾い

- ・子どもを健やかに育む
- ・環境教育



社会的連帯感の回復
(地域づくり)

市民による植樹



高齢者等による
苗木づくり



- ・高齢者の知恵の活用
- ・元気な高齢者の増加
- ・街なかの緑化
- ・多世代交流

6 北九州市環境未来都市の取組



環境、超高齢化に対応するための取組を積極的に推進します。

環境

- ① 低炭素化・エネルギー
- ② 水・大気
- ③ 自然環境・生物多様性
- ④ 3R

超高齢化

- ① 地域医療
- ② 地域の介護・福祉
- ③ 子育て・教育

本市独自の取組

- ① 復興支援とリスクの軽減
- ② 国際環境ビジネス



低炭素・省エネルギー

(1) 環境にやさしいエネルギーをつくる

- 風力発電、太陽光発電等
再生可能エネルギーの導入拡大
- バイナリー発電、副生水素活用等
多様なエネルギーの展開

(2) エネルギーを賢くつかう

- 北九州スマートコミュニティ形成事業
・蓄電設備や地域節電所等の設置
・ダイナミックプライシングの実施

(3) 環境にやさしい交通体系をつくる

- モビリティマネジメントの推進
- 自転車利用環境の向上 等

◆再生可能エネルギー等の導入と普及 (多様な次世代エネルギーが揃った都市)



響灘太陽光発電所



響灘風力発電所



石炭ガス化複合発電



水素ステーション



ひびきLNG基地



潮流発電

水・大気

(1) アジアの環境を守る

- 戦略的環境国際協力の推進
アジアの諸都市の大気、水等の環境改善
⇒ 越境公害の解決

(2) アジアの環境を守る人をつくる

- 実践的環境人材育成拠点の形成
・環境専門人材の育成、
・研修生の受入と専門家の派遣

◆戦略的環境国際協力

アジアでの環境国際協力の成果事例：中国大連市



1994年



現在

- 北九州市の国際協力
- 改善計画の策定
 - 環境研修員受入

国連環境計画 (UNEP) から
「グローバル500」を
大連市が受賞 (2001年)



自然環境・生物多様性

(1) みんなで自然をつくる

- 環境首都100万本植樹（現在 約 35万本植樹済）
- 八幡東田グリーングリッド事業

(2) みんなで自然を守る

- 里地里山の保全や利用
- 生物多様性、希少種の保全活動
 - ・日本最大級の響灘ビオトープ（広さ61ha）

(3) みんなで環境を学ぶ

- 環境みらい学習システムの推進
 - ・環境首都検定（H23 受験者 1,878人）
- 環境修学旅行（H22 7校645名 ⇒ H23 12校974名）

◆豊かな自然を活用した環境人材育成

○環境みらい学習システム



H23入館者
168,508人

生物多様性
(響灘ビオトープ)

自然環境
(水環境館)

H24秋
本格OPEN

3R

(1) 資源リサイクルの拠点をつくる

- レアメタル等希少な資源の回収
- リチウムイオン電池、太陽光発電システム等
新たなリサイクル技術等の開発
- 北九州エコタウンの海外展開

(2) 3Rを積極的に進める

- 市民が一体となった3Rの推進

◆北九州資源リサイクル拠点の形成





地域医療

(1) 身近な地域で健康をつくる

- 保健・医療・福祉・地域が一体で取り組む
「生活習慣病予防及び重症化予防」
- 地域でGO!GO!健康づくり
(H23 97校区で実施)

(2) 地域の医療資源を活かす

- 救急医療体制、リハビリテーション体制の充実
- 障害児者の先進的リハビリテーションの充実

◆地域連携による健康の維持・向上

○地域でGO!GO!健康づくり



地域の介護・福祉

(1) 自ら進んで「健康」をつくる

- 公園を活用した健康づくり、ふれあい花壇・菜園事業
- 年長者研修大学校 (H23利用者 73,211人)
- 生涯現役夢追塾 (H23卒塾生(累計) 274人)

(2) 地域で見守り、支えあう

- 地域福祉ネットワーク北九州モデルの充実・強化
・「いのちをつなぐネットワーク」事業
(H23 地域会合への参加 26,019人、相談592件)
- 障害者相談支援体制の整備と地域支援

◆地域福祉ネットワークの充実・強化

○いのちをつなぐネットワーク





子育て・教育

(1) 地域で子どもを育てる

- スクールヘルパー（H23延べ活動回数 104,350回）
- 経済界と連携した学校教育の充実
（約140社が参加 H24.6現在）
- 子育てサポーター、育児サークル 等

(2) 安心して子育てできるしくみをつくる

- 子育てふれあい交流プラザ（H23利用者 433,731人）
- 子どもの館（H23利用者 762,821人）
- 放課後児童ヘルパー、
放課後ジュニアリーダープログラム
- 全国に先駆けた小児医療体制の充実 等

(3) 子どもの「環境力」を育む

- 北九州環境みらい学習システム
〔環境学習ツアー
環境リーダーみらい塾
学校・地域でのESD活動 等〕
- 環境教育の推進
〔環境未来科の実施、
ユネスコスクールの推進 等〕



◆地域との絆を結び、世代をつなぐ 教育の推進

- 子どもの教育を支えるスクールヘルパー日本一

地域と連携した学校運営



◆安心して生み育てることができる環境づくり

- 子育てに優しいまちづくり推進事業

地域ぐるみで子育てを支えるしくみを推進



市民センター
等を拠点とした
活動を支援



復興支援とリスクの軽減

(1) 被災地の復興を支援する

- スマートコミュニティ創造事業の成果を復興に役立てる（岩手県釜石市）
- 地域が主体となった被災者の支援（「絆」プロジェクト北九州 等）

(2) 災害に備える

- ディザスタリカバリ拠点の形成

◆震災被災地復興支援



スマートコミュニティの成果を釜石市に展開

国際環境ビジネス

(1) アジアで稼ぐ

- アジア低炭素化センターの活用
環境関連技術、水ビジネス等の展開
- 海外とのネットワークを活用

(2) 人と技術で海外とつながる

- 海外人材の育成
- 国内外の多様な人材、技術の交流拡大

◆アジア低炭素化センター

インドネシア・スラバヤ市

中国・北京環境交易所



エネルギー
ビジネス

リサイクル
ビジネス

アジア
展開

水
ビジネス

環境負荷
低減
ビジネス

【環境】環境にやさしいエネルギーをつくる 身近な場所における省エネ・再生可能エネルギー導入



●身近な場所への率先導入



地域に身近な場所である
全ての小中学校へ
太陽光発電を導入



多くの人が集まる
小倉都心・黒崎副都心で
低炭素まちづくりを推進

●省エネ・再生可能エネルギー導入費用補助



市民向け支援

- ・太陽光発電、燃料電池導入補助
- ・住宅リフォーム補助



事業者向け支援

- ・省エネ・再エネ導入補助
- ・設備導入に関する融資

導入促進

環境にやさしいエネルギー導入
環境負荷が低減

導入に伴う設置工事等が増加
経済活動が活発化

環境 エネルギーを賢くつかう 北九州スマートコミュニティ創造事業

(1) 北九州スマートコミュニティ創造事業の実施

地域エネルギーマネジメントシステムの構築

平成24年4月
実証実験開始



(2) 環境未来都市国内外発信拠点整備事業の推進

スマートコミュニティセンター



まちなか案内システム



案内板



(3) 今後の展開

国内展開

市内城野地区、岩手県釜石市などへ
事業の成果を展開



海外展開

アジア地域をはじめ海外へ
事業の成果を移転



【超高齢化】自ら進んで「健康」をつくる ふれあい花壇・菜園事業（まちの森プロジェクト）



Green Frontier
環境未来都市 北九州市
©Hetan, City of Kitakyushu

P14

●未利用市有地や公園の一部を有効活用

無償で地域の自治組織に市有地を貸出

平成24年度
事業開始

花壇・菜園等として利用

平成24年6月9日
八幡東区東台良町で
第1号モデル事業を開始

街なかの
緑を増加

高齢者の
健康づくり

高齢者の
生きがいづくり

多世代交流
地域力UP



※花壇利用のイメージ



八幡東区東台良町での活動の様子

【超高齢化】地域で子どもを育てる 経済界と連携した学校教育の充実

経済界と連携し、 地域を挙げた学校教育の充実を図るまちに！

企業人による小学校応援団
約140社が参加

平成24年度
市内11校で
モデル実施

平成24年6月7日に
中井小学校で取組みを開始

平成25年度以降
対象を全小学校
へ拡大



小倉北区中井小学校の出前授業の様子

《学校応援プロジェクト》

- 社員のPTA参加を促す環境整備
- 親学推進(子育ての責務やその楽しさを学ぶこと)
- 児童の社会体験学習への支援・協力
- 講師派遣(校長・教頭向けリーダーシップ研修など)
- 小学校への出前授業 など

【環境】 先進的モデルとなる未来のまちをつくる グリーンショールームの整備



Green Frontier
環境未来都市 北九州市
©Teitan, City of Kitakyushu

P16

「持続可能なまち」に必要な3要素(自然・低炭素・資源循環)が揃ったまちづくり



PR・学習拠点施設:
北九州エコタウンセンター

- 市民・企業
- 国内外の都市

発信

参加

- 市民・NPO・企業
植樹会等の緑化活動

響灘ビオトープ
(緑の回廊づくり)
【自然共生】



響灘ビオトープ

低炭素・資源循環・自然共生の
PR・学習拠点施設

次世代
エネルギーパーク
【低炭素】

- エネルギーパーク参加企業
9社10施設



風力発電施設

エコタウン
【資源循環】

- エコタウン参加企業
28社29事業所



自動車リサイクル工場

連携

- 研究機関等
北九州学術研究都市
アジア低炭素化センター ほか



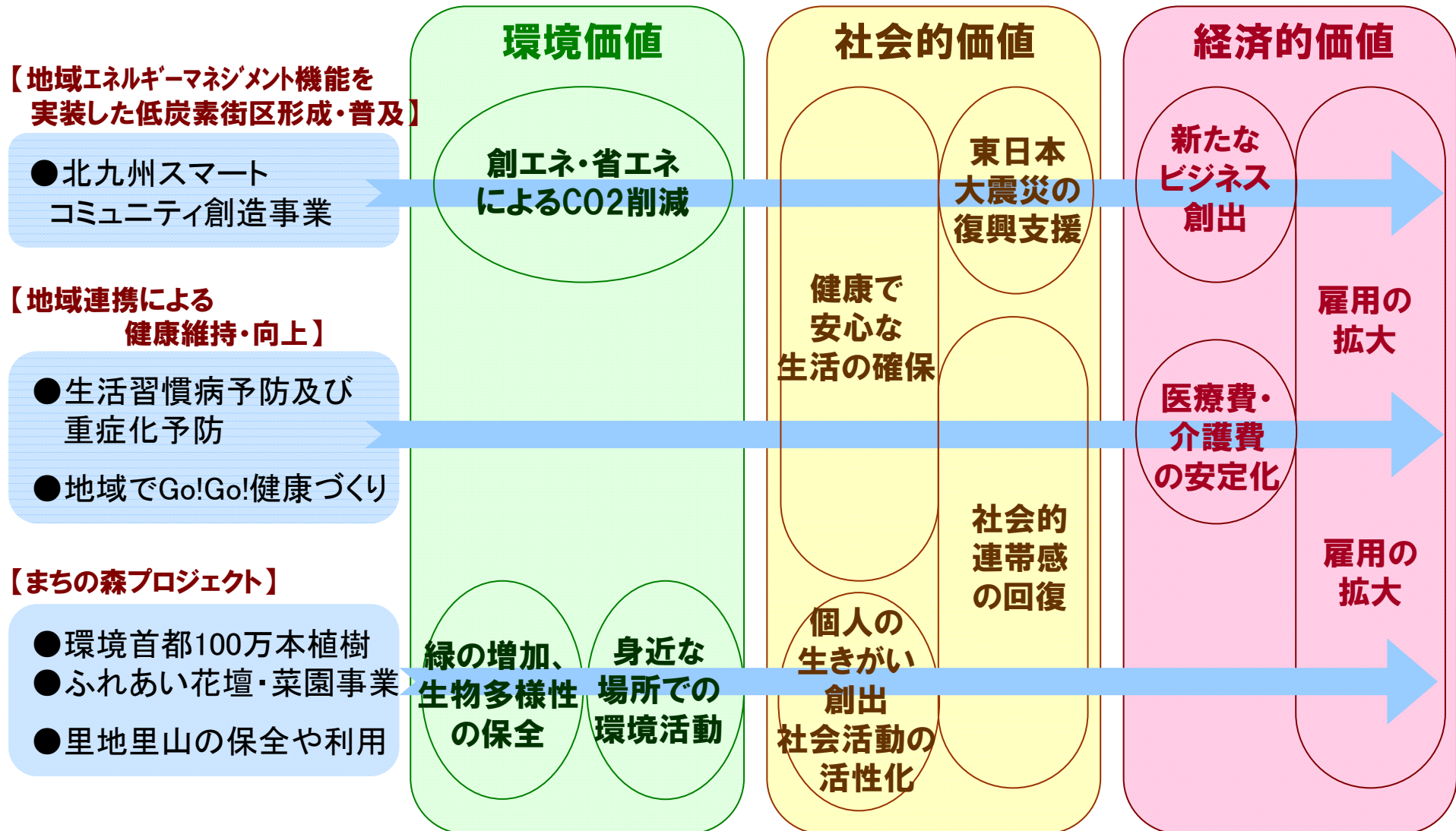
家電リサイクル工場

7 取組が創造する様々な価値



一つの取組が、様々な価値を創造し相乗効果を発揮します。

◆創造する様々な価値の例



8 最後に



住民・企業・行政など、まちが一丸となり将来に向かってチャレンジ。

- 環境未来都市も国際戦略総合特区も都市づくりの手段のひとつ
- 選定が目的ではなく、活用が大事
- 「緑の成長戦略」を実現



OECDから「グリーン成長モデル都市」に選定(H23年7月)



「ていたん」を環境未来都市PR隊長に任命(H24年1月)

【お問合せ先】

北九州市総務企画局政策調整課

TEL: (093)582-2156

FAX: (093)582-2176



記念キャッチフレーズ

結び合う ちから 未来へ 響きあう

記念ロゴマーク



50th Anniversary of
KITAKYUSHU in 2013

結び合う ちから 未来へ 響きあう